

## 福田地区防災士会第12 回研修会

4月23日(日)9時半～12時、福田公民館の「福田の山歩き」行事を福田地区自主防災連絡協議会との共催で行いました。防災士会からは10名の参加があり、途中参加の人も含め総勢35名の参加でした。今回は、福田地区南側にそびえる鷹の条山周辺の過去の土石流跡のうち、福木トンネル上側の土石流跡と観音原団地上側の土石流跡を尋ね、現在そこで行われている砂防ダム建設工事の様子なども見学しました。

とくに観音原団地の上の昔の土石流跡では大きな岩が大量に積み上がり、ナマズの背中のような盛り上がった状態で分布している様子を観察し、ここが巨大土石流の「巣」になっていることを実感するとともに、まだ砂防ダム建設の計画がないことも説明され、今後の大きな課題であることが理解されました。

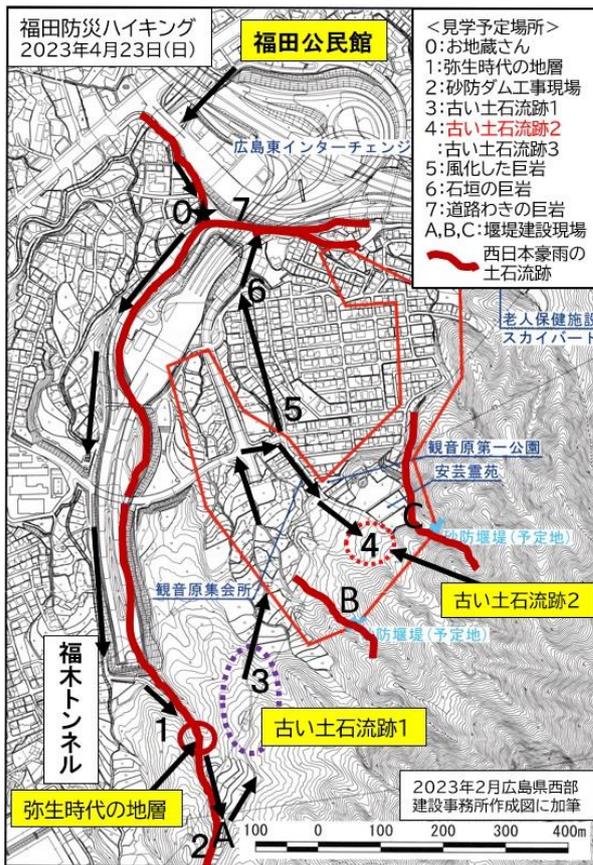
帰りながら団地の中の各所に大きな岩が残されていること、お地蔵さんの近くにも大きな岩が埋まったままになっていることを確認し、古来、お地蔵さんの付近が巨大な土石流の通り道になっていることを実感し、みなでお地蔵さんと鷹の条山をバックに記念写真を撮って公民館に戻りました。地域の成り立ちや土石流のことが理解でき、参加してよかったという感想を多くの人からいただきました。

(記責 越智 撮影:内田防災士、安部防災士、越智、福田公民館)



若山酒店の上にあるお地蔵さんと鷹の条山をバックに記念撮影 このお地蔵さんの意味を考えました。このお地蔵さんのある付近の道路は昔「地蔵通り」と言われていたそうです。

(写真提供:福田公民館)



福田 IC 付近で、西日本豪雨直後の写真を見ながら、この場所の危険度を考えました。



福田IC出口付近(7月8日12時頃)



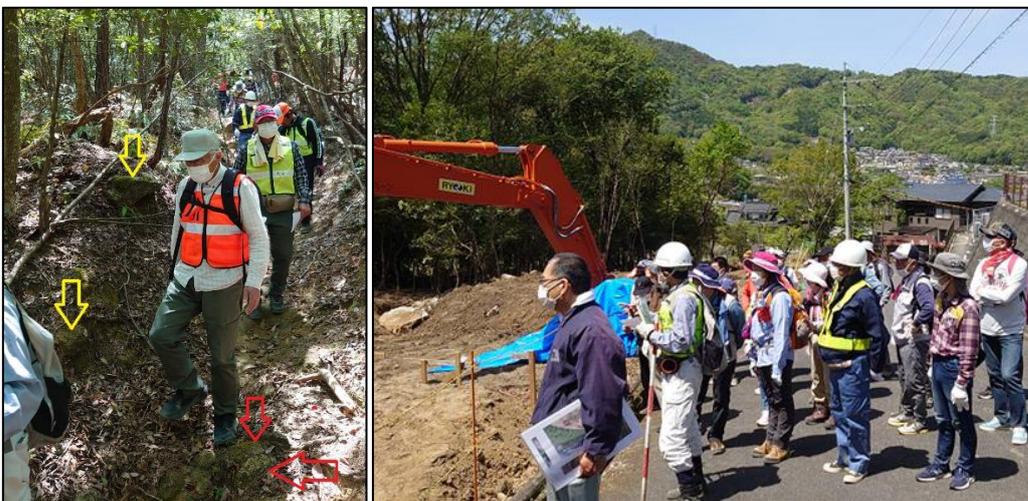
砂防ダム工事現場入口でト部建設の担当者の方から工事前の写真を見ながら説明を聞く。



砂防ダム工事現場の下流部 風化花崗岩の所(G)に設置された堰とその付近の右岸側に見られる昔の土石流堆積物の地層(Da:土石流堆積物、Db:炭質物を含む黒っぽい土石流堆積物)



スリット式(透過型)砂防ダムの左岸側(右の写真の右側)で説明を聞く参加者。約2700㎡の土砂をためることができる。2018年の土石流はここでほぼ直角に曲がったが、古い土石流(Da)もダムの上流側で右向きにカーブし、左岸側(写真右)の花崗岩(G)の上に乗っ上がっている様子がわかる。Dbは右岸のDaの下にある。



No3 地点の古い土石流跡1  
矢印は土砂中の巨石

観音原団地上の工事現場 砂防ダム建設工事用の道路の建設  
をするための工事。あちこちに巨石が出てくる。



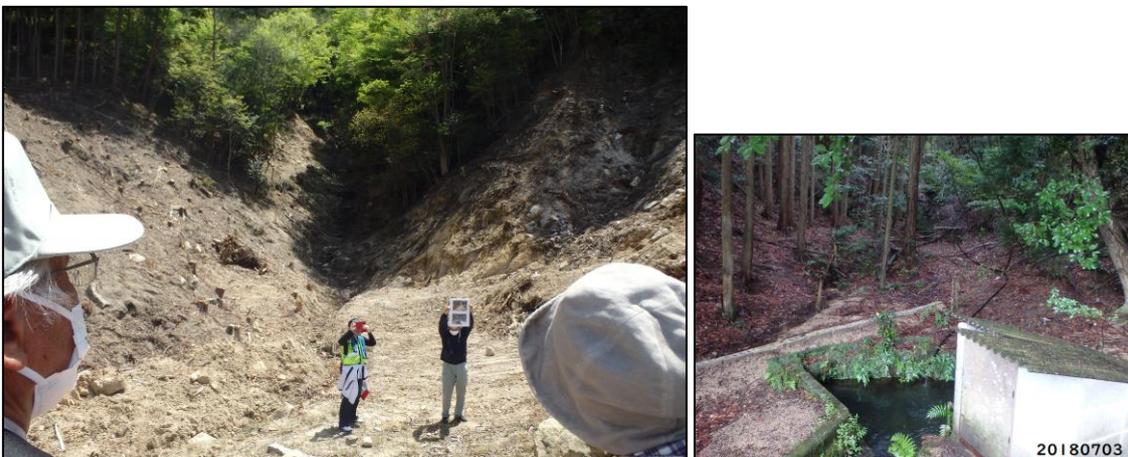
観音原団地上側の工事用道路建設現場。昔の土石流の名残のたくさんの巨石が点在しており、ここが土石流のレッドゾーンに指定されていることがよくわかる。この上流には、砂防ダム建設の計画はない。



上の写真付近に見られた、比較的新しい土石流の土砂に埋まった流木片(黄色矢印)。大岩(赤矢印)はこの流木片の下層に含まれていた可能性がある岩を掘り起こして置かれたものの可能性が高く、流木は大岩を含む土石流よりは新しいと思われる。



根元付近に菌類が生えていて「ナラ枯れ」の兆候が見られるコナラの木。今少しずつ福田地区でもナラ枯れが広がっている。松枯れ同様、これが広範に進めば崩壊しやすい山になる。右の写真でナラ枯れの兆候を見つけて説明しているのが福田地区自主防災会の久保会長。



観音原団地上の墓地の南側の西日本豪雨時の土石流跡。被災前の写真と被災直後の写真を見ながら説明を受ける。ここに砂防ダム建設予定。右の写真は被災前の写真。



お地藏さんの近くの高速道路わきに見られる埋まったままの巨岩(No.7地点)の前での説明。これも過去の土石流の名残りといえる。